

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

調査の概要

- 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の対象学年 [児童生徒数]
・小学校第6学年 [579名] ・中学校第3学年 [596名]
- 調査の内容
○教科に関する調査
国語 算数・数学
○生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査、学校に対する調査
- 調査日 令和3年5月27日(木)
- 調査結果の取扱いに関する配慮事項
調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえること。(文部科学省 令和3年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領より)

教科に関する調査

■教科に関する調査の平均正答率■ (単位%)

		国語	算数・数学
小学校	R3	62 [95.8]	67 [95.4]
	R1	66 [103.4]	65 [97.6]
中学校	R3	59 [91.3]	50 [87.4]
	R1	70 [96.2]	52 [87.0]

[]内は、全国(公立)平均値を100としたときの本市の状況

※令和2年度は調査の実施なし

■学習指導要領の領域等ごとの平均正答率■

(単位%)

		国語
小学校	話すこと・聞くこと	74.2 [95.4]
	書くこと	59.8 [98.5]
	読むこと	42.5 [90.0]
	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.3 [97.1]
中学校	話すこと・聞くこと	75.1 [94.1]
	書くこと	49.9 [87.4]
	読むこと	42.5 [87.6]
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.4 [93.7]

		算数・数学
小学校	数と計算	59.2 [93.8]
	図形	52.8 [91.2]
	測定	70.8 [94.7]
	変化と関係	74.0 [97.5]
	データの活用	72.3 [95.1]
中学校	数と式	55.7 [85.8]
	図形	43.2 [84.0]
	関数	51.0 [90.4]
	資料の活用	48.1 [89.4]

[]内は、全国(公立)平均値を100としたときの本市の状況

質問紙調査

◆◆ 主に児童生徒自身に関すること ◆◆

質問事項	小学校	中学校
[1] 毎日朝食を食べている。	93.8(94.9)	94.2(92.8)
[2] 毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	83.1(81.2)	84.4(79.8)
[3] 毎日、同じくらいの時刻に起きている。	91.7(90.4)	94.9(92.7)
[4] 将来の夢や目標を持っている。	84.4(80.3)	78.4(68.6)
[5] 自分には、よいところがあると思う。	78.7(76.9)	80.8(76.2)
[6] いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。	97.1(96.8)	95.9(95.9)
[7] 人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.7(95.5)	95.7(95.0)
[8] 今住んでいる地域の行事に参加している。	68.0(58.1)	53.1(43.7)
[9] 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	48.7(52.4)	50.0(43.8)
[10] 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	74.1(70.9)	78.5(65.9)
[11] 新聞を読んでいる。	11.7(14.8)	7.4(10.4)
[12] 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている。	68.3(70.1)	67.8(67.9)

は全国平均値より高い項目 ()内は、全国〔公立〕平均値

◆◆ 主に学校生活・学習に関すること ◆◆

質問事項	小学校	中学校
[1] 学校に行くのは楽しい。	86.3(83.4)	84.5(81.1)
[2] 家で自分で計画を立てて勉強をしている。	77.0(74.0)	71.4(63.5)
[3] 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	64.7(63.5)	66.4(62.0)
[4] 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	79.8(78.2)	87.7(81.0)
[5] 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた。	69.6(67.2)	71.1(59.5)
[6] 学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	81.9(78.8)	83.2(77.8)
[7] 授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(週1回以上の割合)	73.7(40.1)	53.9(33.4)
[8] 学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	95.9(94.5)	95.1(93.2)
[9] 学校の授業時間以外に、どれくらいの時間、読書しますか。(30分以上の割合)	38.1(37.4)	35.9(28.9)
[10①] 平日学校の授業時間以外に、どれくらいの時間、勉強しますか。(1時間以上の割合)	69.9(62.5)	80.4(75.9)
[10②] 平日学校の授業時間以外に、どれくらいの時間、勉強しますか。(30分未満の割合)	10.3(13.0)	7.8(9.9)

は全国平均値より高い項目 ()内は、全国〔公立〕平均値

教科に関する調査結果から

【小学校】

国語、算数ともに平均正答率が全国を下回る。全国との差は令和元年度よりも広がった。

【中学校】

国語、数学ともに平均正答率が全国を下回る。国語は、全国との差が令和元年度よりも広がった。

◇：よい傾向 ◆：改善の必要有り ⇒：改善策の一例

【小学校：国語】

◆「読むこと」の、目的に応じ文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけることに課題が見られる。
⇒読む目的を明確にし、文章中の言葉と図表などを線で結びつけるなどして、視覚的に理解できるように指導していく。

☆

学
力

【小学校：算数】

◆「数と計算」「図形」「データの活用」に課題が見られる。
⇒基礎・基本の定着を図るため、習熟の時間を確保し、児童が身に付けるべき力を身に付けることができたかどうかの見取りを確実にやっていく。

☆

【中学校：国語】

◆「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均を下回っている。特に「読むこと」「書くこと」について、文章の内容を捉えた上で、自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にすることに課題が見られる。
⇒文章を読み、具体的な叙述を根拠に自分の考えをもつ学習や、話し合い活動などを通して、叙述と結びつけて自分の考えをもつ力を付ける。

【中学校：数学】

◆「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」が全国平均を下回っている。特に「数と式」「図形」について課題が見られる。
⇒基礎・基本の定着を図るため、習熟の時間を確保し、生徒が身に付けるべき力を身に付けることができたかどうかの見取りを確実にやっていく。
⇒図形の性質を見だし、数学的に表現する場面などを意図的に設定していく。

児童生徒に対する質問紙調査結果から

児童生徒の学習意欲や規範意識は全国平均と同等かやや高く、道徳性が育まれていることがうかがえる。学校での学習に対する意識も高く、課題解決について友達と協働しながら主体的に取り組んでいる様子も見られる。また、ICTの活用状況については、特に小学校において、全国平均を大きく上回っている。

□：よい傾向 ■：改善の必要有り ⇒：改善策の一例

【小学校・中学校共通で主に児童生徒自身に関すること】

□生活習慣について「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と答えている割合が全国平均より高い。

□自己について「将来の夢や目標を持っている」「自分には、よいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えている割合が全国平均より高い。

■「新聞を読んでいる」「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えている割合が全国平均より低い。

⇒学校で新聞記事等を活用した学習に取り組みせ、新聞に触れる機会を増やす。

⇒情報モラル等に関する啓発資料を活用した指導を充実させる。

【小学校・中学校共通で主に学校生活・学習に関すること】

□学校生活について「学校に行くのは楽しい」と答えている児童生徒の割合が全国平均より高い。

□学習について「授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使いましたか」の質問に「週1回以上」と答えた児童生徒の割合が全国平均より高い。

□「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と答えている割合が8割を超えていて、全国平均より高い。

□学習習慣について「平日学校の授業時間以外に、どれくらいの時間、勉強しますか。」の質問に、「1時間以上」と答えた割合が全国平均より高い。

☆
学
習
意
欲
等
☆

昨年度の取組の検証と課題

本市では、学力向上アクションプランを策定し、地域・家庭との連携や安心して学べる学校・学級づくりを土台とした授業改善に全小・中学校で取り組んでいる。1時間の授業を大切に、子供たち一人一人の学力を伸ばそうと、【めあて（課題）→見通し→学び合い・習熟→まとめ→振り返り】を基本とした「本庄型授業スタンダード」を推進してきた。児童生徒に対する質問紙調査〔6〕の結果を見ると、児童生徒が友達と学び合う活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。各々での授業改善は進んでいる。しかしながら、依然としていずれの教科においても全国平均との差があり、学習内容の定着に課題がある。

改善に向けた教育委員会の重点取組

- 課題解決的な学習の充実や、学び合いの質的向上など、学びの過程を重視し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善をより一層進める。
- 児童生徒の学習状況を適切に把握し、ICT機器などを有効に活用しながら個に応じた指導を進め、学習内容の確実な定着を図っていく。
- 指導主事の学校訪問を積極的に行い、具体的な授業改善策の提示や、各校の実態に応じた支援などを行っていく。